様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｈ００７０６

研究課題名（和文）近代中央アジアのムスリム家族とイスラーム法の社会史的研究

研究課題名（英文）A Social History of the Muslim Family and Islamic Law in Modern Central Asia

研究代表者
磯貝　健一（Isogai, Kenichi）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：４０３５１２５９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ロシア帝政期に中央アジア南部諸都市のイスラーム法廷で作成された各種文書の分析、および、ウズベキスタンで実施した現地の宗教者や宗教教育従事者を対象とする聞き取り調査を実施した。その結果、帝政期の司法制度改革により現地法廷が経験した変化は、法廷が発給した文書の形式・内容にも反映されていることが明らかになった。また、現在のウズベキスタンにおいて、イスラーム家族法由来の制度が一定程度継承されていることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、中央アジアがロシア帝国の支配下にあった19世紀後半から20世紀初頭を対象とし、当時のイスラーム法廷が作成・発行した各種の文書に依拠してロシアによるムスリム支配の実態を、特に家族という最も基本的な社会単位をキーワードとして考察したものである。既に四半世紀前から家族史研究が精力的に進められていたオスマン帝国史研究に比べ、中央アジアの家族史研究は殆ど手つかずの状態にあった。本研究は、中央アジア史研究をイスラーム世界の他地域の研究と接続させるという意味で、学術的に高い意義を持つ。

研究成果の概要（英文）：In this study, we analyzed various documents produced by Islamic courts of southern Central Asian cities that had been incorporated into Russian Turkestan. We also conducted interviews with local religious leaders and religious educators of contemporary Uzbekistan to verify the degree of continuity in traditional practices derived from Islamic law. Through this study, it became clear that the changes Islamic courts of the region had undergone as a result of the judicial reform implemented by Russian colonial administration were reflected even in the format and content of the documents they issued. Concerning the continuity of practices derived from Islamic family law, we see their prints among customs followed by wide range of population in present-day Uzbekistan.

研究分野：中央アジアのイスラーム法廷文書研究

キーワード：中央アジア　中央ユーラシア　ロシア帝国　イスラーム法廷文書　家族史　法制度史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

本研究は、主にイスラーム法廷文書に依拠しながら、ロシア帝政期中央アジア南部（およそ現在のウズベキスタンの領域に相当）のムスリム社会における家族の在り方を描こうとしたものである。ロシア帝国によるムスリム統治の実態については、今世紀以降、特に法制度の観点から研究が積み重ねられており、帝政期中央アジアについてもロシア語行政文書とイスラーム法廷文書の双方に依拠しながら帝政期以後の司法制度および法意識の変化を読み取ろうとする P. Sartori の業績が既に存在している。ただし、膨大な数の法廷台帳が伝世するオスマン帝国史研究において既に 90 年代からこれを利用した家族史研究が活発に進められているのに対し、同じく多数の法廷文書を利用可能な帝政期の中央アジア研究では、家族史はほぼ未開拓の領域であった。言うまでもなく、家族は人間が構成する社会集団のうち最も基本的な単位であり、過去の社会を歴史学の手法で再構成しようとする場合、避けて通れない問題領域である。したがって、中央アジア史研究をイスラーム世界の他地域の研究に接続し、イスラーム世界の近代という枠組みの中に中央アジアを定位しようとする場合、この地域の家族史研究という領域を開拓することは研究者にとって喫緊の課題であった。本研究はこのような状況を背景として立案されたものである。

研究開始当初において、社会史的な方法論を採用する海外の帝政期中央アジア研究は、ロシア語行政文書に過度に比重を置く傾向があり、また、イスラーム法の基本的知識を欠いたままアラビア文字法廷文書（ペルシア語、テュルク語）を利用したことからテキストの誤読、曲解が目立つという問題を抱えていた。一方で、我が国の研究は、アラビア文字法廷文書研究の実績は海外の研究者に対しむしろ優位にあったが、同時代のロシア帝国全体を視野に入れながら近代中央アジア史を研究するという態度が筆者を含め希薄であった。本研究は、中央アジア史研究に家族史という領域を開拓するとともに、国内・国外の学界がそれぞれ抱えていた研究上のアンバランスを克服することも意図していた。

２．研究の目的

本研究では、以下 4 つの目的を設定した：①イスラーム法廷文書を利用して当時の家族成員間の関係を解明する、②当時の司法制度、法意識を解明する、③ウズベキスタンで聞き取り調査を実施し、イスラーム法由来の婚姻、相続等の慣習の残存度合いを解明する、④同時代のイランやヴォルガ・ウラル地域との比較家族史研究を実施する。

このうち③は、文献に依拠した歴史研究の成果を、現地社会を対象とする文化人類学の研究へと接続し、現在の中央アジア地域におけるイスラーム的伝統の継承度合いを検証しようとする意図のもと設定した。この地域におけるイスラーム的伝統の強度の度合いについては、主に政治的な面から関心が向けられるが、果たしてそれがソ連解体後の社会変動の中で一般に定着したものなのか、あるいは、ソ連期を経て現在に受け継がれているものなのかを検討するためには、家族法の領域に属するイスラーム法由来の慣行の継承度合いを測定することが有効だろう。また、④は、上に述べた我が国の学界が抱える問題を克服するために必須の課題である。

３．研究の方法

上に示した目的を達成するため、本研究では以下 4 つの方法を採用した：㋐ウズベキスタンでの資料調査・収集、㋑同国での聞き取り調査、㋒研究会での成果の共有と議論、㋓法廷文書読解技術の共有と後進育成のための古文書研究セミナーの開催。

このうち、㋓は、中央アジア史研究にかかわらず、広くイスラーム世界各地域の歴史研究に従事する若手研究者に法廷文書の読解技術を継承し、将来的に各地の法廷文書の比較研究を実現することを目的として設定している。

４．研究成果

本研究の研究機関は本来 2018 年度から 2021 年度の 4 年間であるが、新型コロナウイルスの流行により研究の遂行に支障が出たことから、研究費を 1 年繰越して 2022 年を最終年度としている。

《主な成果》

(1)ウズベキスタンでの資料調査・収集活動（上記研究目的の①②に関連）

本研究の主要資料は、ウズベキスタン共和国内の諸研究機関が所蔵する法廷文書であり、研究遂行のために現地で継続的に資料を調査・収集する作業が不可欠である。2018、2019 年度は予定通り現地の国立中央文書館、ヒヴァ市の国立イチャン・カラ博物館保護区等で資料調査を実施したが、続く 2020、2021 年度はコロナウイルス流行に伴う渡航制限により調査を断念した。ただし、2019 年度に上記国立中央文書館にて調査を行った際、本研究にとって極めて重要な資料である帝政期サマルカンド州の遺産分割台帳を発見し、これを複写できたことは大きな成果である。本台帳は、帝政期における家産継承パターンを解明するための鍵と成り得る資料である。本

台帳は未だ分析の途上にあるが、後述する 2021 年 3 月開催の中央アジア古文書研究セミナーにおいて、その一部の内容を紹介している。

(2)ウズベキスタンでの聞き取り調査（上記研究目的の③に関連）
上記(1)と同様に、コロナウイルス流行に伴う渡航制限のため、実施年は 2018、2019 年度の 2 年間のみであったが、それでも計 8 名のインフォーマントから聞き取り調査を行うことができた。インフォーマントは、タシュケント市内のモスクのイマームを含む宗教者、国立の教育機関において宗教教育に従事する者、イスラーム研究に従事する者であり、各回の調査は、分担者で文化人類学を専門とする和崎を中心に、代表者の磯貝（健）、同国立歴史研究所の研究員を交えて実施した。結果として、㋐イスラーム法に由来する婚資（マフル）支払い義務は、現在、アクセサリー等を新郎が新婦に与える慣行として、わずかにその痕跡を留めるに過ぎないこと、㋑相続については現行法の規定がイスラーム法のそれに取って代わったが、遺言等の手段でイスラーム法の規定に沿った相続を行おうとする者も存在すること、の 2 点が明らかになった。ただし、同国内の宗教教育機関はいずれも政府の管理下にあることから、インフォーマントが提供する情報には、一定の制約があるものとみなさねばならない。また、和崎は、現行の家族法の枠内で行われる「正式な」婚姻と、宗教者立会のもとで実施されるインフォーマルな婚姻の双方が同国内で併存していることを指摘している。以上のことを踏まえるならば、イスラーム家族法由来の慣行は、社会階層や地域によりその度合に濃淡はあるものの、現在も一定程度継承されていると言える。

(3)近代中央ユーラシア比較法制度史研究会の開催（上記研究目的の①～④に関連）
1 年の繰越期間を含め、2018～2022 年度までの 5 年間に 10 回の研究会を開催し、内 1 回は国際シンポジウム形式で実施している。各回の内容の詳細については、（公財）東洋文庫 HP 内にある以下のページを参照されたい（http://tbias.jp/acttype/centraleurasianlaw）。研究期間内に開催した 10 回の研究会における報告数は 18 であり、対象地域は中央アジアを含むロシア帝国諸地域のほか、満州、モンゴル、イラン、シリア、エジプト、時代は 16 世紀から現代に及んでいる。各報告は、いずれも司法制度と家族を題材としており、本研究のテーマであるロシア帝政期中央アジアの家族研究にとって、有意義な比較対象をメンバー全員で共有することができた。また、本研究会での議論を通じ、中央ユーラシアとこれに隣接するイラン、オスマン帝国領を包摂する、本格的な比較法制度史研究を実施する基盤が整えられた。なお、本研究会の成果の一部として、2022 年 2 月に論集『帝国ロシアとムスリムの法』（磯貝真澄・磯貝健一共編、昭和堂）を刊行している。

(4)中央アジア古文書研究セミナーの開催（上記研究目的の①②④に関連）
繰越期間 1 年を含む 5 年の研究期間中に、同セミナーを 5 回開催した。各回の内容の詳細については、（公財）東洋文庫 HP 内にある以下のページを参照のこと（http://tbias.jp/acttype/centralasianseminar）。いずれの回も 20 名以上の参加者を得たが、中央ユーラシアの、しかも、アラビア文字文書の読解技術共有をテーマとするセミナーで、これほどの参加者が集まるのは世界でも稀有な事例である。本セミナーには、毎回複数の大学院生も参加しており、イスラーム世界の歴史研究を志す国内の若手研究者（我が国への留学生も含む）に法廷文書読解の基礎を提供する場ともなっている。

(5)国内外における位置づけとインパクト、今後の展望
上に述べた研究会の継続的な開催、および、論集『帝国ロシアとムスリムの法』の刊行により、中央アジア家族史という新領域を国内の研究者に一定程度認知させることができたのは、本研究の成果の一つである。
また、本研究により、中央アジア、コーカサス、ヴォルガ・ウラル地域といった帝国内諸地域においてイスラーム法を適用可能な範囲がどの程度異なるのかが、法廷文書とロシア語法文の双方を利用して、具体的な事例にもとづき解明されたことはとりわけ大きな成果である。特に、コーカサスとヴォルガ・ウラル地域のアラビア文字法廷文書は世界的に未開拓の資料群であり、本研究が与えるインパクトは大きい。
さらに、帝政期前後の法廷文書フォーマットを通時的に分析することで、中央アジアのイスラーム法廷における業務内容の継続性と帝政期におけるその変容についても、新たな知見を学界に提供することができた。ごく簡単に述べるならば、帝政期に中央アジアのイスラーム法廷が経験した司法制度上の変容は、各法廷が発給した文書の形式、内容のレベルに反映されていた。その一方で、裁判自体は帝政期以前と同様に、イスラーム手続き法に厳格に則って実施されていたのである。
アラビア文字法廷文書とロシア語法文の双方に依拠した上記の成果は、世界的に見ても高いレ

ベルにあり、今後、研究成果を英語化することにより、帝政期中央アジア法廷文書への関心を一層高めることが期待できる。
また、ロシア帝国「内地」のムスリム集中地域であるヴォルガ・ウラル地域や、イラン、シリアを専門とする研究者と共に研究会を定期的に開催したことで、本格的な法廷文書の地域間比較を実施する素地ができた。現状では、中央ユーラシア・ムスリム地域の近代を扱う研究は、イスラーム教の教義ないしイスラーム法を巡るウラマー層内外の言説、あるいは、ロシア帝国のムスリム統治の基礎にある法制度の解明に比重を置く傾向にある。今後、19～20 世紀のオスマン帝国、イラン、中央ユーラシアにおけるイスラーム法廷の比較研究を実施するならば、近代イスラーム世界における伝統的司法制度の継続と変容という観点から中央ユーラシア・ムスリム地域の近代を再解釈し、国内外の学界における議論を活性化することが期待できる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計36件（うち査読付論文　17件／うち国際共著　3件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 磯貝健一	４．巻 なし
２．論文標題 序章　ロシア・ムスリム・Legal Pluralism―歴史学と法学の対話	５．発行年 2022年
３．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	６．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯貝真澄・塩谷哲史・磯貝健一	４．巻 なし
２．論文標題 第1章　中央ユーラシアのムスリムとロシア帝国法	５．発行年 2022年
３．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	６．最初と最後の頁 15-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯貝健一	４．巻 なし
２．論文標題 第4章　二種の判決文―中央アジア・シャリーア法廷の文書作成業務	５．発行年 2022年
３．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	６．最初と最後の頁 107-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯貝真澄	４．巻 なし
２．論文標題 第2章　ロシア帝国的「イスラーム法」の構造―ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの婚姻・離婚	５．発行年 2022年
３．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	６．最初と最後の頁 47-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 阿部尚史	4．巻 65
2．論文標題 ナジャフコリー・ハーン家のトユール	5．発行年 2022年
3．雑誌名 お茶の水史学	6．最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 阿部尚史	4．巻 1
2．論文標題 継承されるサフィー廟不動産目録	5．発行年 2022年
3．雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究別冊	6．最初と最後の頁 91-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 なし
2．論文標題 第8章　妻の権利をめぐる人間模様―現代ウズベキスタンの「法」制度と運用	5．発行年 2022年
3．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	6．最初と最後の頁 213-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 宮下修一	4．巻 なし
2．論文標題 Discussion2　「古き法」と「新しき法」の交錯―財産権・婚姻・裁判にみる相克と調和	5．発行年 2022年
3．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	6．最初と最後の頁 253-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀川徹	4．巻 なし
2．論文標題 Epilogue　シャリーア法廷文書収集・研究プロジェクトの二〇年	5．発行年 2022年
3．雑誌名 磯貝真澄・磯貝健一共編『帝国ロシアとムスリムの法』（昭和堂）	6．最初と最後の頁 267-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 阿部尚史	4．巻 99
2．論文標題 サファヴィー朝滅亡後のシェイフ・サフィー＝アッディーン廟――アルダビール文書のなかの18、19世紀勅令・命令書	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6．最初と最後の頁 133-168
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 磯貝健一	4．巻 89
2．論文標題 遺産の共有：19世紀後半から20世紀初頭中央アジアの家族と家産継承	5．発行年 2019年
3．雑誌名 西南アジア研究	6．最初と最後の頁 87-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Исогай, Масуми	4．巻 論集
2．論文標題 Правовой плюрализм и мусульманский развод в Волго-Уральском регионе конца XIX века	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Десятые Большаковские чтения: сборник статей международной научно-практической конференции	6．最初と最後の頁 67-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯貝真澄	４．巻 1
２．論文標題 19世紀から20世紀初頭のロシアにおけるムスリムの婚姻と法（特論1-3）	５．発行年 2019年
３．雑誌名 結婚と離婚（イスラーム・ジェンダー・スタディーズ1）	６．最初と最後の頁 146-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 磯貝真澄	４．巻 91
２．論文標題 書評と紹介　長縄宣博著『イスラームのロシア：帝国・宗教・公共圏，1905-1917』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 イスラム世界	６．最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 矢島洋一	４．巻 62-1
２．論文標題 大塚修著『普遍史の変貌：ペルシア語文化圏における形成と展開』	５．発行年 2019年
３．雑誌名 オリエント	６．最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 和崎聖日	４．巻 論集
２．論文標題 第４章「旧ソ連ムスリムの結婚と離婚―ウズベキスタンの例」	５．発行年 2019年
３．雑誌名 長沢栄治監、森田豊子・小野仁美編『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ１　結婚と離婚』	６．最初と最後の頁 83-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ハサンハン・ヤフヤー・アブドゥルマジード（著）、和崎聖日、木村暁（訳）	4．巻 15
2．論文標題 ウズベク語におけるクルアーンの解釈と翻訳について	5．発行年 2019年
3．雑誌名 日本中央アジア学会報	6．最初と最後の頁 23-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 アドハム・アシロフ（著）、和崎聖日（訳）	4．巻 8
2．論文標題 中央アジア文明における宗教信仰と儀礼	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明	6．最初と最後の頁 15-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日、アドハム・アシロフ	4．巻 8
2．論文標題 旧ソ連中央アジアのスーフィズムと病気治療：ジャフル儀礼の手順について	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アフロ・ユーラシア内陸乾燥地文明	6．最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 阿部尚史	4．巻 980
2．論文標題 「不安定」に満ちた文書調査―イランにおける文書館利用と文書調査	5．発行年 2019年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 43-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 磯貝真澄	4．巻 14
2．論文標題 （学会発表要旨）ヴォルガ・ウラル地域テュルク系ムスリム家族の法社会史研究の試み―19世紀末の婚姻簿から	5．発行年 2018年
3．雑誌名 日本中央アジア学会年報	6．最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 磯貝真澄	4．巻 68
2．論文標題 （書評）帯谷知可編著『社会主義的近代とイスラーム・ジェンダー・家族（1）（CIRAS Discussion Paper No. 69）』（京都大学東南アジア地域研究研究所、2017年）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 法制史研究	6．最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 ИСОГАЙ, Масуми	4．巻 該当せず
2．論文標題 Метрические книги как источник для изучения правовых аспектов брака и развода у тюркских мусульман Урало-Поволжья	5．発行年 2018年
3．雑誌名 Традиционный ислам в России и башкирский ученый-теолог мусульманского мира, шейх Зайнулла Расулев. Уфа	6．最初と最後の頁 135-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀川徹	4．巻 該当せず
2．論文標題 マーワラーアンナフルのイスラーム化とテュルク化 ： 社会・文化土壌の形成(歴史)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 66-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀川徹	4．巻 該当せず
2．論文標題 コラム4 「ウズベク」はどこから来たか(歴史)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 77-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀川徹	4．巻 該当せず
2．論文標題 学術交流 ： 中央アジア歴史文書プロジェクト(日本とのかかわり)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 352-355
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀川徹	4．巻 該当せず
2．論文標題 コラム11　中央アジア古文書研究セミナー	5．発行年 2018年
3．雑誌名 小松久男他編『中央ユーラシア史研究入門』（山川出版社）	6．最初と最後の頁 134
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 矢島洋一	4．巻 64
2．論文標題 トゥグルク・テムルとモグール・ウルス	5．発行年 2019年
3．雑誌名 寧楽史苑	6．最初と最後の頁 50-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 該当せず
2．論文標題 家族とジェンダー ： 名誉と恥のゆくえ(暮らしと社会)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 128-133
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 該当せず
2．論文標題 農村の1年：人々の暮らし（暮らしと社会）	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 134-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 該当せず
2．論文標題 祝祭と儀礼 ： 苦難の歴史とを越えて人々をつなぐもの(暮らしと社会	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 145-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 該当せず
2．論文標題 今も息づくイスラーム法 ： 世俗国家の中の宗教(暮らしと社会)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 170-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 該当せず
2．論文標題 伝統遊戯とスポーツ ： 格闘大国ウズベキスタンのクラシュ(文化・芸術)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 271-277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 和崎聖日	4．巻 該当せず
2．論文標題 スポーツ交流 ： 現地の人気スポーツと日本人選手たちの軌跡(日本とのかかわり)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 帯谷知可編『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）	6．最初と最後の頁 364-370
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Адхамжон АШИРОВ ва Сейка ВАЗАКИ	4．巻 該当せず
2．論文標題 Марказий Осиёда тасаввуф таълимотлари тарихини ургаанилиш хакида айрим мулохазалар	5．発行年 2018年
3．雑誌名 халкаро илмий-назарий анжуман материаллари	6．最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Адхамжон АШИРОВ ва Сейка ВАЗАКИ	4．巻 該当せず
2．論文標題 Узбек халкининг анъанавий турмуш-тарзида миллий ва диний анъаларни уйгунлашуви	5．発行年 2019年
3．雑誌名 Замонавий жамиятда инновацион тараккиёт ва ижтимоий-гуманитар фанлар интеграцияси	6．最初と最後の頁 18-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕　計27件（うち招待講演　1件／うち国際学会　4件）

1．発表者名 磯貝健一
2．発表標題 タズキラとファトワー：ロシア帝政期中央アジアのシャリーア法廷裁判
3．学会等名 西南アジア研究会総会
4．発表年 2021年

1．発表者名 磯貝健一
2．発表標題 反訴（daf`）に関連するファトワー文書
3．学会等名 第20回中央アジア古文書研究セミナー
4．発表年 2022年

1．発表者名 磯貝真澄
2．発表標題 ロシア帝国におけるイスラーム教育網と「ムスリム聖職者」層 ：イスラーム社会史からロシア社会史を議論する試み
3．学会等名 上廣歴史資料学研究部門研究報告会（東北大学東北アジア研究センター）（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 磯貝真澄
2．発表標題 ヴォルガ・ウラル地域の婚姻と離婚の記録
3．学会等名 第20回中央アジア古文書研究セミナー
4．発表年 2022年

１．発表者名 矢島洋一
２．発表標題 離婚に関するファトワー文書
３．学会等名 第20回中央アジア古文書研究セミナー
４．発表年 2022年

１．発表者名 ABE, Naofumi
２．発表標題 Urban Household Structure in 19th Century Iran: The Case of Tabriz
３．学会等名 The Ninth European Conference of Iranian Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 阿部尚史
２．発表標題 王朝滅亡後の王家祖廟：19世紀シェイフ・サフィー廟の財産管理と保全の試み
３．学会等名 上智史学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 阿部尚史
２．発表標題 財産目録・帳簿史料に見る家産の維持・存続――19世紀後半におけるイラン有力者家族の実践
３．学会等名 九州史学会
４．発表年 2019年

１．発表者名 磯貝健一
２．発表標題 16世紀後半中央アジアのマドラサ・カリキュラム
３．学会等名 第82回羽田記念館定例講演会
４．発表年 2019年

１．発表者名 磯貝健一
２．発表標題 ロシア帝国統治期（1865-1917）の中央アジア・シャリーア法廷台帳について
３．学会等名 グローバルな視点でみるユーラシア大陸：第5回清朝と内陸アジア国際学術研究会（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 磯貝健一
２．発表標題 ロシア帝国領中央アジアのシャリーア法廷判決台帳：その意義と史料としての特性
３．学会等名 法制史学会東京部会第277回例会
４．発表年 2019年

１．発表者名 磯貝真澄
２．発表標題 ロシア帝政期ヴォルガ・ウラル地域のムスリムとイスラーム家族法
３．学会等名 第1回「中央ユーラシアのムスリムと家族・規範」研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 ISOGAI, Masumi
２．発表標題 Muslim Marriages and Divorces in the Late Nineteenth-Century Volga-Ural Region
３．学会等名 International Workshop “Contested Legal Practices in the Long Nineteenth Century: The Volga-Ural Region, Kazakh Steppe, and Eastern Anatolia”（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 矢島洋一
２．発表標題 トルキスタン地方のロシア法廷におけるムスリム家族関係訴訟
３．学会等名 第12回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会
４．発表年 2019年

１．発表者名 矢島洋一
２．発表標題 ヒヴァのテュルク語ファトワー文書
３．学会等名 第18回中央アジア古文書研究セミナー
４．発表年 2020年

１．発表者名 和崎聖日
２．発表標題 現代中央アジアのスーフィズムの一様相―ペルシア系住民による病気治療の儀礼
３．学会等名 第56回野尻湖クリルタイ
４．発表年 2019年

１．発表者名 磯貝健一
２．発表標題 法廷に持ち込まれた「家族」の問題、または、「家族」内の紛争―ロシア帝国領中央アジアのファトワー文書を材料とした試論
３．学会等名 第10回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 磯貝真澄
２．発表標題 ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域のムスリム女性による最初の言論活動―宗務協議会とウラマーの関連から
３．学会等名 CIRAS共同利用・共同研究個別ユニット「社会主義を経たイスラーム地域のジェンダー・家族・モダニティ」研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 磯貝真澄
２．発表標題 ロシア帝国ヴォルガ・ウラル地域のムスリムの婚姻簿―法社会史研究の試み
３．学会等名 第11回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 磯貝真澄
２．発表標題 19世紀末～20世紀初頭中央アジアのワクフ関連文書
３．学会等名 第17回中央アジア古文書研究セミナー
４．発表年 2019年

１．発表者名 ИСОГАЙ, Масуми
２．発表標題 Исламиское семейное и наследственное право в Поволжье и Приуралье Российской империи
３．学会等名 The 9th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies（国際学会）
４．発表年 2018年～2019年

１．発表者名 矢島洋一
２．発表標題 Sarih al-Milkにおける法廷文書書式について
３．学会等名 「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究」第2回研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 矢島洋一
２．発表標題 中央アジアのカーディー印
３．学会等名 第17回中央アジア古文書セミナー
４．発表年 2019年

１．発表者名 和崎聖日
２．発表標題 ソヴィエト・ウズベキスタンにおける「婚資」の問題―体制派とイスラームの諸潮流
３．学会等名 第11回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会
４．発表年 2018年

１．発表者名 和崎聖日
２．発表標題 性と「つながり」のあり方―中央アジア南部地域の定住ムスリム社会
３．学会等名 金沢星稜大学人文学部会・教養教育部会講演会「つながりの比較文化―家族，コミュニティの起源・普遍性から未来を考える」
４．発表年 2019年

１．発表者名 Seika WAZAKI
２．発表標題 Madaniyatni o'rganish va visual antropologiya
３．学会等名 Farg' ona vodiysi etnologiyasi (O'zbekiston etnologiyasining dolzarb muammolari)
４．発表年 2019年

１．発表者名 Seika WAZAKI
２．発表標題 Metodologiya sifatidagi visual antropologiya
３．学会等名 O'zbekiston etnologiyasining dolzarb muammolari (O'zbekiston Respublikasi Fanlar akademiyasi tarix institute)
４．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

１．著者名 磯貝真澄、磯貝健一（共編著）	４．発行年 2022年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 304
３．書名 帝国ロシアとムスリムの法	

１．著者名 阿部 尚史	４．発行年 2020年
２．出版社 中央公論新社	５．総ページ数 368
３．書名 イスラーム法と家産	

１．著者名 FARKHSHATOV, Marsil N. and ISOGAI, Masumi	４．発行年 2020年
２．出版社 Fuchu, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	５．総ページ数 119
３．書名 “My Autobiography” by Hasan `Ata' Gabashi in 1928: `Ulama and Soviet Power	

〔産業財産権〕

〔その他〕

南ウラルのイスラーム聖地と墓碑銘
https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/en/collection/musepitaph
東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室「近代中央ユーラシア比較法制度史研究会」
http://tbias.jp/acttype/centraleurasianlaw
東洋文庫研究部イスラーム地域研究資料室「中央アジア古文書セミナー」
http://tbias.jp/acttype/centralasianseminar

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	和崎　聖日 (Wazaki Seika) (10648794)	中部大学・人文学部・准教授 (33910)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	阿部　尚史 (Abe Naofumi) (20589626)	お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授 (12611)	
研究分担者	堀川　徹 (Horikawa Toru) (60108967)	京都外国語大学・外国語学部・名誉教授 (34302)	
研究分担者	矢島　洋一 (Yajima Yoichi) (60410990)	奈良女子大学・人文科学系・教授 (14602)	
研究分担者	宮下　修一 (Miyashita Shuichi) (80377712)	中央大学・法務研究科・教授 (32641)	
研究分担者	磯貝　真澄 (Isogai Masumi) (90582502)	千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授 (12501)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

国際研究集会	開催年
第13回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会	2019年～2019年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関